



和 ～心をつなぐ～

令和4年7月14日

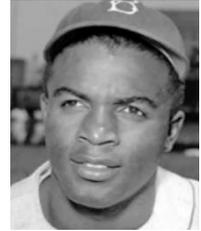
第1号



42 世界を変えた男 ジャッキー・ロビンソン

和光中学校では、毎月「道徳の日」にさまざまな人の生き方や社会情勢について話を聞き、自身自身の心と向き合い、じっくり考える時間をもっています。

6月は、あるメジャーリーガーの生き方に学びました。現在、大谷翔平選手をはじめとする日本人選手たちがメジャーリーグで活躍しています。彼らの活躍のきっかけとなった一人の選手について考えました。



何人かの感想を紹介します。

☆ 1年生 ☆

- 人種差別がとても深刻な中、ロビンソンはたった一人で努力し、周りの選手や野球ファンの心を動かし、チームの一員になったことは、生半可な気持ちや努力ではできないことなので凄(すごい)と思いました。やはり努力で世界は変わると改めて知りました。
- 差別を受けても決してやり返さないのはとても難しいと思います。強くて礼儀正しく紳士的な人になるのは難しいと思います。
- 色んな人から嫌がらせを受けてとても嫌われていたジャッキー・ロビンソンを受け入れたブランド・リッキーはとても意志が強いと思った。

☆ 2年生 ☆

- 差別をされてもあきらめなければ相手の心を動かせるのだということを知った。どんなにひどいことをされようともそれに屈しないジャッキー・ロビンソンはとてもかっこいいと思った。ぼくも彼のようにになりたい。
- 差別はまだ残っている。だから減らしていかないといけない。

☆ 3年生 ☆

- どんなに差別されようとも、やり返さない「勇気」をもつことと、努力したらむくわれるということを学びました。これからテストなどいろいろあるので努力し続けたいと思います。
- 心強い味方(リッキー社長)がいたことで差別に耐え、メジャーリーグを大きく変えたロビンソン選手とリッキー社長はとてもかっこいいと思いました。
- 差別に苦しんだ黒人の人たちは、ジャッキー・ロビンソンに大きな勇気を与えてもらったと分かった。まるでヒーローみたいでした。この人の強い心をまねしたいです。

1947年4月15日、ブルックリン・ドジャーズのグラウンドに、背番号42をつけた黒人選手が現れました。この選手が「ジャッキー・ロビンソン」です。彼が成し遂げたすべてのことは、決して簡単なことではありませんでした。それまでのアメリカメジャーリーグは、白人選手だけにしか出場が許されていませんでした。1940年代のアメリカを覆い尽くしていた根深い人種差別の風潮の中で、彼は、メジャーリーグの人種差別の壁を破り、全ての人種にチャンスの扉を開いたのです。

ロビンソンは、打っても走っても他の人よりも優れていました。最初の年、彼はチームを優勝へと導き、新人王に選ばれました。初登場から2年後には、最優秀選手賞を受賞しました。

大活躍をしたロビンソンですが、最初は黒人というだけで、周りから受け入れてもらえませんでした。「ロビンソンが試合に出るのなら試合はしない」と、対戦を拒否するチームもありました。同じチームの選手ですら、ロビンソンと一緒にプレイするのを嫌がってわざと試合に出なかったり、他のチームに移ったりする選手もいました。何より、常に彼は、嫌がらせの的（まと）となっていました。

フィリーズと戦った試合で、ロビンソンがバッターボックスに入った時のことです。敵チームのベンチにいた選手が一斉に立ち上がって機関銃を撃つポーズをとり、ジャッキーに狙いを定めて「ダダダダ！ダダダダ！」とやり始めたのです。敵チームファンの観客もそれをまねて、一斉に大声で「ダダダダ！撃ち殺してしまえ」と叫ぶ声が野球場に響き渡りました。

そんなひどい環境の中で、ロビンソンは、どうやってメジャーリーグで活躍することができたのでしょうか。ロビンソンの努力は言うまでもありませんが、彼を常に支え続けた妻の存在と、もう一人、ロビンソンの才能を見だし、世に出した当時のチームの球団社長「ブランチ・リッキー」の存在も忘れてはいけません。

ロビンソンはもともと差別を許さない、差別には抗議する性格で、けんかっぱやいところがありました。そんな気性（きしょう）の荒いロビンソンをチームに入れることについて、リーグも世間の人々も、そして選手たちも猛反対でした。そんな中で契約を結んだのがリッキーでした。リッキーがロビンソンに求めたことは「どんな差別を受けても決してやり返さない『勇気』をもつこと」でした。リッキーは、ロビンソンに向かって「君はこれまで誰もやってこなかった困難な戦いを始めなければならない。その戦いに勝つためには、君は、偉大な選手であるだけでなく、どんな時も暴力に訴えることをしない立派な紳士でなければならない。仕返しをしない勇気をもつことだ。」と言い聞かせました。この約束をロビンソンは忠実に守り、どんなにひどい言葉を浴びせかけられても、嫌がらせを受けてもそれに屈することはありませんでした。

そんなロビンソンの頑張りが、ついに、周りの選手や野球ファンの心を動かしました。ドジャーズの監督は、「選手の肌の色が黄色であろうと黒であろうとかまわない。私はこのチームの監督だ。優秀な選手であれば使う。もし、自分に反対する者がいたら、チームを出て行ってほしい。」と語りました。ロビンソンはどんな時も礼儀正しく、紳士的な振る舞いによってチームの仲間から受け入れられるようになりました。そして、彼は、何億という人の、特にアフリカ系アメリカ人である黒人の希望の星となりました。

今も、毎年、4月15日には、アメリカメジャーリーグの全選手、コーチ、監督のすべてが背番号「42」をつけてプレイしています。そして、ジャッキー・ロビンソンが初めて球場に姿を現した日を記念して、4月15日を「ジャッキー・ロビンソンデー」と呼んでいます。